

ムロトムヨウラン（ラン科）を九州本土に記録する

久保 紘史郎¹・末次 健司²・福永 裕一³

A new locality of *Lecanorchis taiwaniana* Ying (Orchidaceae) from Kyushu mainland, Japan

Koshiro KUBO¹, Kenji SUETSUGU², Hirokazu FUKUNAGA³

はじめに

九州本土では初めてとなるムロトムヨウラン *Lecanorchis taiwaniana* を鹿児島県いちき串木野市で記録したので報告する。なお、生育地に関する情報は証拠標本に記したが、乱獲による影響を考慮し、その情報は必要最小限にとどめた。証拠標本は鹿児島県立博物館、大阪市立自然史博物館に保管されている。

1 概要

ムロトムヨウランは、クロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honda に似るが 1) 花茎が長い、2) 花序が長い、3) 萼片および花弁が帯黄白色で幅が狭い、4) 唇弁の主脈が5脈であり、先端部はごくわずかに3裂する、5) 結実個体が茶褐色である。6) 蒴果が斜上に着く、7) 蕊柱の長さの二分の一が唇弁と融合する、8) 蕊柱基部が微軟毛に覆われる、9) 葯帽先端部が浅いM状に尖っている、等の点で区別が可能である (Ying, 1987; Sawa *et al.*, 2006; 福永ほか, 2011; Fukunaga *et al.*, 2014; Suetugu *et al.*, 2016)。

日本では高知県をタイプ産地として *L. amethystea* Y. Sawa, Fukunaga & S. Sawa として記載された。その後、沖縄県でも発見され (福永ほか, 2011)、分類学的再検討の結果、*L. amethystea* は台湾に自生する *L. taiwaniana* と同一分類群であることが判明し、*L. taiwaniana* の新参異名とされた (Suetsugu *et al.*, 2016)。

本種はこれまで、高知県室戸岬、沖縄県北部、鹿児島県屋久島および長崎県福江島において、海外では台湾で分布が確認されている (Ying, 1987; Sawa *et al.*, 2006; Hsu and Chung, 2010; 福永ほか, 2011; Fukunaga *et al.*, 2014; 末次・福永, 2016; 末次・福永, 2017)。

このように琉球列島に分布し、さらに北上分布する種は九州西部に分布域を広げる場合が多いことが知られている (中西, 1996)。ムロトムヨウランが、他の北上分布する亜熱帯性植物と同様の分布パターンを示すと考え、屋久島などの北琉球以外の鹿児島県や熊本県にも分布し、これまでクロムヨウランと同定されている種の中にムロトムヨウランとすべきものが含まれている可能性があると言われていた (末次・福永, 2017)。

そこで著者らは鹿児島県内における、クロムヨウランの産地について検討を行った。鹿児島県本土ではいちき串木野市、南九州市、霧島市、紫尾峠、肝付町からクロムヨウランが記録されている (丸野2010; 鹿児島県, 2016)。その中でもムロトムヨウランの生育環境に近いと考えられる鹿児島県いちき串木野市の常緑広葉樹林床にて現地調査を行い、複数のムヨウラン属の開花個体を発見した。標本採集を行い上記の形質を再検討した結果、前述の分類形質に合致しており、ムロトムヨウランであると断定した。

2 生育地の環境

ムロトムヨウランは、標高150 mの南西に面した、林の傾斜角度15度の緩やかな斜面に生育していた。5 m × 5 mの範囲に10個体程度が確認された。周辺地域の植生は、高木層は、スダジイ (優占種)、タブノキが、亜高木層は、ヒサカキ、ユズリハ、ヤマモモ、タブノキ、アラカシ、ネズミモチ、モチノキが、低木層は、クロキ (優占種) ネズミモチ、クサギ、ヒサカキ、

1 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1-1

2 神戸大学理学研究科：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

3 〒770-852 徳島県徳島市徳島町3丁目35

イタビカズラ、メダケ、ミミズバイ、タブノキ、タイミンタチバナ、ヤブニッケイ、イヌビワ、バクチノキ、ハクサンボクが、草本層は、イズセンリョウ（優占種）、ハナミョウガ、フモトシダ、アマクサシダ、ツワブキ、ナキリスゲ等の生育が見られた。概観としては、高木層は、平均胸高直径38.7 cm のスダジイが優占し、タブノキが混成し、亜高木層にはヒサカキが、低木層にはクロキ、ネズミモチ等が目立ち、草本層はイズセンリョウやハナミョウガ等が見られた。スダジイを中心とする常緑広葉樹林の林床の比較的明るく傾斜が緩やかな環境は、高知、沖縄、屋久島、福江島の生育環境（Sawa *et al.*, 2006；福永ほか, 2011；末次・福永, 2016；末次・福永, 2017）と共通している。また、いちき串木野市はツルラン、ヤッコソウ、キクシノブなど南方系の種が多く記録されている温暖な気候であり（鹿児島県, 2003；鹿児島県, 2016）、このような環境がムロトムヨウランの生育を可能にしていると思われる。

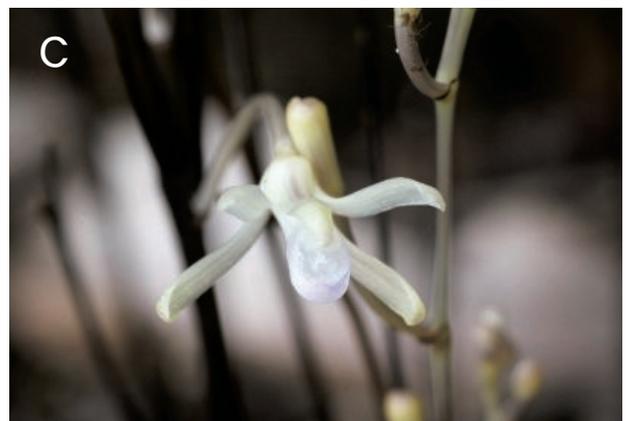
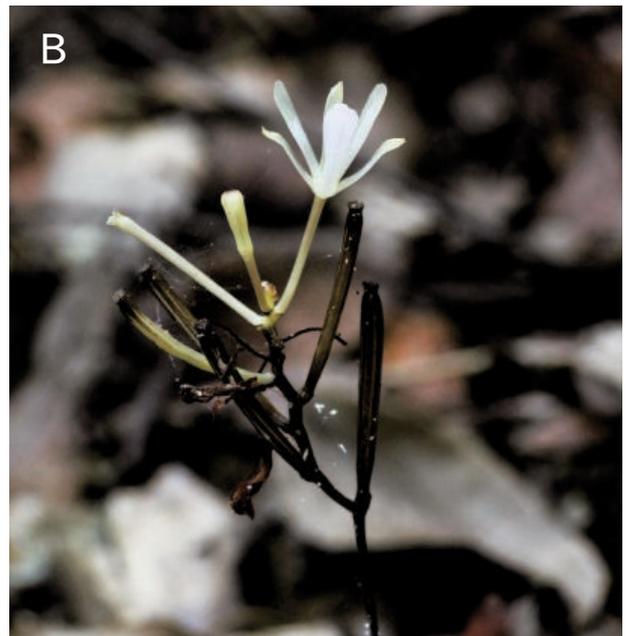


図 1. ムロトムヨウラン（2016年8月2日）
鹿児島県いちき串木野市薩摩山
A：群生の様子， B：花と果実， C：花

3 保護と保全

この調査地は2015年8月、いちき串木野市に最接近した台風15号の影響で高木層を占めていたスダジイの一部が根こそぎ倒れ、林床が乾燥するなど環境が大きく変化している。今回の調査ではムロトムヨウランの生育を確認できたが、安定的に個体数を維持していけるかは不明であり、今後継続的に観察調査を行う必要がある。また、ムロトムヨウランは現時点では鹿児島県のレッドリストには含まれていない。しかし現在確認されている鹿児島県の生育地は2カ所のみで、屋久島についても生育地周辺の森林伐採が危惧されている（末次・福永, 2016）。このことから、鹿児島県レッドリストの対象種に含め、生育地を保全していくことが望まれる。

証拠標本

鹿児島県いちき串木野市 薩摩山 標高150 m 2016年8月2日 久保紘史郎（鹿児島県立博物館：20160240, 20160241；大阪市立自然史博物館）

引用文献

福永裕一・阿部篤志・澤進一郎(2011)ムロトムヨウラン(ラン科)を沖縄県に記録する. 分類, 11 : 151-154.

Fukunaga, H. Y. Sawa, and S. Sawa (2014) Identification of Japanese *Lecanorchis* (Orchidaceae) species in fruiting stage. *International Journal of Biology*. 6(2) : 1-10.

Hsu, T. and S. W. Chung (2010) Supplements to the Orchid Flora of Taiwan (V). *Taiwania*, 55 : 363-369.

鹿児島県(2003)鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編 - 鹿児島県レッドデータブック -. 657pp. 鹿児島県環境技術協会.

鹿児島県(2016)改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編 - 鹿児島県レッドデータブック -. 499pp. 鹿児島県環境技術協会.

丸野勝敏(2010)鹿児島県本土産ムヨウラン属(*Lecanorchis* Blume)植物の記録. *Nature of Kagoshima*, 36 : 37-41.

中西弘樹(1996)九州西廻り分布植物：定義, 構成, 起源. 植物分類, 地理, 47(1) : 113-124.

Sawa, S., H. Fukunaga and Y. Sawa (2006) *Lecanorchis amethystea* (Orchidaceae), A new Species from Kochi. *Acta Phytotax. Geobot.* 57 : 123-128.

Suetsugu, K., T. C. Hsu, H. Fukunaga and S. Sawa (2016) Epitypification, emendation and synonymy of *Lecanorchis taiwaniana* (Vanilloideae, Vanilloidea, (Orchidaceae). *Phytotaxa*, 265 : 157-163.

末次健司・福永裕一(2016)ムロトムヨウラン(ラン科)を屋久島に記録する. 分類, 16 (2) : 207-209.

末次健司・福永裕一(2017)ムロトムヨウラン(ラン科)を福江島に記録する. 分類(印刷中).

杉野孝雄・鈴木一郎(1987) 遠州地方のムヨウラン類の分布と生態. 遠州の自然, 10 : 77-91.

Ying, S. S.(1987) Miscellaneous notes on the flora of Taiwan (VI). *Quarterly Journal of Chinese Forestry* 20 : 123-137.

